

令和 2 年度

事業所名： 福光園グループホームフクちゃんハウス

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 0370900573 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 柏寿会 | | |
| 事業所名 | 福光園グループホームフクちゃんハウス | | |
| 所在地 | 〒021-0901 岩手県一関市真柴字岩ノ沢91番地19 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年6月15日 | 評価結果市町村受理日 | 令和2年6月4日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

もうひとつの我が家があるという事が利用者様にとって第二の我が家となっている。不安のまま入居されてくるが、その人の特性を分析しながら、何が必要か、何に困っているのかという事を見極め支援している。生活目標(利用者の声)を立て、楽しく生活したい、健康で過ごしたい、家族に会いたい等の声を大切に日々の生活の中で、常に側に寄り添い、会話を大切に、不安のない生活支援を提供している。重度だからという事ではなく、その人らしく、出来る事をひとつでも多く見つけだし、行う事で、機能維持に繋がったり、表情緩和にも繋がっている。生活支援の中で、些細な事でも気づきとして捉え、それがその人にとっての必要性となっている。又、利用者様同士の会話であったり、いない事で不安になったりと心配してくれたり、いる人がその場所にいないだけでも不安になり本当の家族のように生活出来ているように思える。家族様との交流にも力を入れており、行事にも参加して頂き、又、家族様同士での会話も多く見られている。面会も多く、一時の時間が本当の家族としての団欒にも繋がり、お互いが安心出来る場ともなっている。笑顔、助け合い、不安のない生活が利用者様、家族様にも伝わっているものと感じている。職員会議を利用しての自己研鑽にも力を入れており、様々な方向から常に見える人、考えられる人となるよう知識を養っている。職員間同士での情報共有や、個々に確認するという事も重要とし、聞く事も大切であるが、目で確認するという事を先に行う事で、その場の解決策が講じられるように教育している。※職員個々の日々の成果はあがりつつあるが、意図とする課題を常に見つけ出し、それが上手く仕事に活かせるよう努力している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、宮城県金成市境の国道4号線沿いに、平成16年に開設された1ユニットのグループホームである。敷地内には、法人本部のある特別養護老人ホーム、デイサービス事業所があり、合同防災訓練や急変時の看護師対応等、日常的に連携が図られている。開設当初から、利用者及び家族は、全員運営推進会議の委員として委嘱され、家族の敬老会等の事業所行事への参加率は高く、昨年の総面会者数は450人近くに上った。職員は受け持ち制はとらず、入居者全員の情報と介護計画を共有するため、毎月の職員会議(2時間あまり)は全員参加で開催している。毎年、事業実施計画を策定し、目標に対する評価やまとめを報告しており、職員はスキルアップに努力し、利用者目線を基本にしたサービスが徹底されていることが伺われる。年度初めの職員研修では、4つの事業所理念を実践に活かす注釈を定め、日々の利用者支援に活かしている。管理者は、職員を指導・支持し、利用者家族との交流、介護力の向上、コロナ渦中の感染防止策の徹底等、事業所力の向上に努力している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会 |
| 所在地 | 〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号 |
| 訪問調査日 | 令和2年7月17日 |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームフクちゃんハウス

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員全員で理念を考えている。個々に理念を理解し日々の仕事に反映させていけるよう取り組んでいる。ホームの玄関に事業所理念、法人の理念を掲示し、又、職員会議を利用して職員間で意識し共有する事で入居者様主体の生活を送れる様努めている。 | 年度始めの職員会議で、法人理念と事業所理念について、管理者が職員全員に説明し、利用者支援における理念を確認している。今年度は、四つある事業所の理念の夫々について、具体的な支援内容を明記し、日々のケアで実践している。職員会議には、パート職員も参加している。 | パート職員を含む職員全員が参加する職員会議で、「フクちゃんハウス基本理念」の4項目について、具体的な支援内容を決め、全員が理念に基づいたケアの提供に努力を惜しまず実践されていることが窺われます。今後も、利用者が安心・楽しいと体感できる生活を維持し向上することに努められることを期待します。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 年間を通して定期的な慰問(民謡、踊りの会、コーラスグループ、幼稚園)の受け入れ、地域行事(子供神輿、地区運動会)への参加。又、地域の小学校への雑巾寄贈(余暇活動での手縫いの雑巾)を毎年行っている。事業所、入居者様方が地域の一員として理解していただける様支援している。 | 今冬からのコロナ禍の中で、年間を通して定期的に受け入れていた慰問は中止している。地域行事等も中止されているが、民区とのつながりは継続しており、広報の配布や回覧板は回ってきている。毎年、地域の小学校へ手作り雑巾(100枚)を寄贈しており、利用者4名と職員が出向き、新聞に掲載されたり、小さな親切運動の表彰を受けている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議での地域住民への日常生活の報告、地域行事への参加、小学校の雑巾寄贈の受け入れと文化祭のご案内等々様々な場面で触れ合う機会を活用し理解して頂いている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1度、地域住民、家族、行政の方々に参加して頂き、運営推進会議を行っている。ホームの現状、取り組み状況を報告した上で、情報交換、意見や助言、地域の現状を伝えて頂いている。又、職員会議での研修資料、お便りを配布し情報を提供している。意見交換する事で互いの状況把握、理解に繋がっている。地域の方々からも知りようを提供して頂き、勉強になる事も多いと話されている。 | 運営推進会議は、地域の代表者の他、全利用者及び家族、全職員を委員として、当日都合の良い利用者と家族及び日勤帯の職員が参加し、事業所内で開催している。地区の委員からは、地域の情報を頂いたり、認知症関係の資料を提供し喜ばれている。近隣の消防署と駐在所から、年1回関係者が会議に出席している。委員の意見で、避難口の段差解消のためのスロープを設置している。利用者の発言は無いが、緊張感を持って参加している。 | |

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームフクちゃんハウス

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に参加して頂き、事業所の現状報告を行い、担当職員から意見、助言や、市政の現状報告を受けている。又、集団指導会参加で状況確認の場となっている。事業所の個別案件も電話、訪問で相談、確認し相互の共有が保たれている。特例事案についても、相談、申請し、常に利用者様、家族様の立場に立った視点で行う事を大切にしている。 | 運営推進会議に、地域包括支援センター職員が出席し、助言や意見を頂いている。管理者は、市担当課窓口に出し、連携強化を心がけている。生活保護の担当ケースワーカーの状況確認や年1回介護相談員の来所も受け入れている。住所地の異なる入居希望相談等の個別事案については、随時担当者に連絡を入れ確認している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止委員会を設置し年間を通し定期的に会議開催し、職員間で共有している。マニュアル作成し、内容を職員間で把握、共有し日常のケアに取り組んでいる。身体拘束定義確認表を活用し、職員個々で毎日チェックし確認し、日々身体拘束をしない介護の徹底に努めている。又、運営推進会議を通し地域、家族、職員へのアンケート調査実施する事で取り組みの周知を図っている。又、年2回運営推進会議を利用し研修会を実施し共有に繋げている。 | これまで、身体拘束の事例はない。職員は、出勤時に「身体拘束定義確認表」をチェックし、日々、身体拘束しない介護の提供に努めている。日中は、玄関の施錠をせず、活動を制限はしていない。利用者がいるホールに、職員1名を必ず配置し、安全の確認をしている。身体拘束廃止委員会は、管理者・主任・職員2名で構成している。マニュアル等も整備し、年間の会議や研修も計画されている。スピーチロックについては、気づいた都度口頭と書面で注意喚起を図っており、管理者は職員の対応が改善されてきていることを実感している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 職員会議等内外での研修を通して職員間で情報共有し入居者様方に負担を掛けないよう取り組んでいる。又、禁句、虐待マニュアル作成し毎年見直すことでも意識し対応に努めている。家族様とも情報の共有を大切にすることで虐待防止に繋げている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部研修受講により復命での職員への報告。職員会議での資料提示、研修を行うことにより職員全体での知識、情報の共有に努めている。又、家族様へも運営推進会議、お便り等で資料提示、報告する事で互いの情報共有に繋げている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時の説明、契約、又、変更時の速やかな家族様への報告、説明を行うことで理解、納得して頂き、その都度契約書の取り交わしを行っている。又、家族様より個別に説明を求められた場合は、都度説明させて頂き疑問や不安な状態の緩和に繋がるよう職員個々に努めている。 | | |

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームフクちゃんハウス

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議、カンファレンス、面会時等に意見、要望を頂いたり、玄関内に受付相談箱を設置している。又、家族様アンケートを実施し回答して頂き、意見、要望に関しては職員間で共有し改善に向けて取り組んでいる。結果は家族様へも報告している。 | 毎月、事業所の広報紙「フクちゃん便り」と利用者個々の1か月の生活状況報告を送付している。家族来所時には、管理者や主任のみならず各職員も対応し、利用者の近況を伝えながら要望等を伺っている。これまで家族等から苦情を受けたことはなく、運営に関する意見もほとんどない。事業所で実施した記述式のアンケートでは、5つの設問各々に丁寧に回答があり、家族からの信頼の高さが伺われる。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月の職員会議、年2回の個人面談の際に意見、要望、相談等受けている。又、日常的に休憩時間等を利用し職員の話聞き入れようとし意見交換しやすい雰囲気作りを心掛けている。又、職員会議資料(個々に足りない事)に現状を提示し職員間で共有し意識向上に繋げている。 | 管理者は、年2回職員面談を実施し、意見や要望を受けている。日常的な問題について、職員は、随時管理者や主任に相談しその都度解決している。管理者は、職員が気軽に相談や意見を出せるよう心がけており、主任との役割分担も適切である。勤務上職員はすれ違うことことが多く、月1回全員が参加する職員会議を大事にしている。職員会議は、9時から11時、パート、休日の職員も含め全員参加で開催している。勤務体制は、早出、日勤、遅出、夜勤の他、フリー(通院対応要員)、介護補助員(調理買出し掃除)を配置している。給与は年俸制である。 | 月1回の職員会議は、休日やパートの職員を含め全員参加で行われ、職員が会議の重要性を理解し大事にしていることが十分窺われます。今後も継続されることを期待します。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 労働環境の整備、個人面談等を実施し意見、思いを聞く場を持ち、それを反映させるよう努めている。* 職員個々の勤務形態(要望等)、その日の体調変化等に応じた仕事内容も踏まえ対応している。状態変化への瞬時の対応を行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 施設内外の研修への参加(外部研修の参加、法人全体の研修会)で学んだ事を職員会議や復命書にて報告している。又、毎月の自己研鑽として管理者からの様々な分野の題目に関して各自で調査、学習し資料提供し職員間で互いに学べる環境作りの構築に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 施設内外の研修への参加の機会を作り、他施設職員との情報交換や交流をはかる場を設け学べる環境を作っている。そこから仕事に対する意識向上に繋げるよう個々に取り組んでいる。 | | |

事業所名 : 福光園グループホームフクちゃんハウス

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所する際、事前にご本人、家族様と面談を行い、それまでの生活状態、問題点、要望等の情報をお聞きしている。それを基にフェイスシート作成し職員間で共有し、ホームでの安心、安全な生活、楽しい穏やかな生活、希望を取り入れた生活を送って頂く為に意見を出し合い、支援のあり方を考え取り組むようにしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所前の面談の際、家族様の意見、要望、思いをお聞きしている。又、ホームでの生活内容についても詳しくご説明させて頂き、不安な事、困っていること等解消出来るよう取り組んでいる。入居前には、本人、家族の目でホーム見学をして頂いている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、家族様との話し合いの内容を基に、現在必要としている事を見出し、職員間で検討し場に応じた支援、対応に努めている。又、本人の長所、短所等特性を掴み、日常生活での障害や、本人の思い、出来る事への支援に繋がるよう努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 出来ない事、不安なことへの介護を行わせて頂いているが、その時々のおいを汲み取りながら負担をかけない様支援している。又、生活からヒントを生み出しながら自身として出来ることの発掘にも繋げている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 在宅での生活からシフトした生活となるが、生活状況について毎月お便りを発行し家族様としての共有に努めている。又、面会の際にも現況について報告し今の状況についても理解して頂き、共に共有している。家族と一時の時間を大切に、そこから共に支え合える関係性が構築されている。※家族様としての気づきもあり。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族様の協力を得ながら外出の場を提供している。お墓参り、自宅、外食等。又、馴染みのある床屋等にも出向き、世間話をしたりとお互いの気持ちがかち会えるよう支援しており関係性が途切れる事のないようにしている。又、友人の面会もある事で安心感も得られている。 | 利用者への面会は多く、家族や友人の面会は年間445人で、月20人前後の来訪者である。コロナ禍の中で、馴染みの床屋での散髪をやむを得ず訪問理容に切り替えている。定期の通院は、主治医の判断で受診間隔が長くなっている利用者もいるが、家族と外出できる貴重な機会であり、円滑な受診支援と併せ交流を促している。長男、二男が、隔週で面会に来ている利用者家族もいる。 | 理念にあるように、利用者と家族・地域社会との関係継続を積極的に支援し、昨年度の来訪者は年間445人を数えています。新型コロナウイルス感染予防策で、現在は難しい状況にありますが、今後とも積極的な支援を続けられることを期待します。 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 一人一人違う環境で生活されてこられた方達が、共同生活を行う中で自然にお互いの特徴を掴み、支え合っている様子が伺える。共に軽作業、余暇活動を行い会話を通してコミュニケーションが図られており、職員はその中に入って橋渡しを行い良い関係作りにも努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去された後も気にかけて頂き家族様が慰問に来られたり、お米を持って来て頂く事もある。退所後も色々な形で交流を続けていけるよう努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 生活の中で利用者様方との会話、ふれあいを大切にしている。その中から思いを引き出し、職員間で情報共有に努めている。職員会議、ケアカンファレンスを通して話し合いを大切にし家族、利用者様方の希望がかなえられる様努めている。 | 把握した利用者の意向は、家族と調整し実現に向け努めている。最近、利用者は全員でホールに集まっていることが多く、入浴時職員とマンツーマンになった途端 溜め込んでいた思いを次々話したすことが多い。食材の買い物の前に食べたい物を確認すると、刺身を希望されることが多い。「夜男性職員がいないと怖いなあ」等、利用者は気軽に気持ちを表出している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居の際、家族様からこれまでの生活歴をお聞きしフェイスシート作成し職員間で情報共有している。又、本人様との関わりを大切にすることで本人像を掴み、その後の対応に繋げている。 | | |

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームフクちゃんハウス

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日のバイタル測定、食事、水分摂取量、排泄のチェックを行っている。又、表情、言動、行動等からその日の状態の把握に努めている。ケース記録を大切にすることで、職員間での情報共有に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月職員会議でモニタリングを行っている。定期のケアプラン見直しの際に本人、家族様に参加して頂きケアカンファレンスを行い、現状報告、今後の課題等々検討し家族、本人様の意見、要望に添った介護計画作成し了承して頂いている。 | 入居前のアセスメントで、生活歴や趣味、特技、嗜好、留意点等を複数体制で聴き取り、全職員が利用者の概要を把握している。入居時には介護支援専門員が作成した介護計画に沿ってサービスを開始し、その後は、管理者から指名された職員が原案を作成し、職員全員で検討し、介護支援専門員が最終確認している。毎月のモニタリングも職員全員で行なっている。介護計画見直しの際には、本人・家族も参加し、要望に沿った計画としている。なお、モニタリングの中心となった職員は、その月の「利用者状況報告」を作成し、家族に提供している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケース記録を職員間で確認し共有している。その上で申し送りを行い利用者様の状態を把握しケアに取り組んでいる。又、職員会議でケアプラン評価を行い、反省、意見を出し合い見直しに反映させている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ホームでの生活、家族様の面会等からそれぞれの家庭環境を見極め、その状況に合わせたサービス、対応を行っている。誕生日、母の日に面会、プレゼント、外食を行う家族様もあり、職員対応で支援する場合もある。緊急通院の際も家族様が来られない場合は職員で対応している。その場に応じた対応を行うことで家族様との信頼関係にも繋げている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近隣地区からの歌、踊りのボランティアの受け入れ、地区民運動会、子供御輿、小学校への雑巾寄贈、文化祭見物等を通じて皆さんとの関わりを持つことで、楽しみや安心感を感じて頂いている。 | | |

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームフクちゃんハウス

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所前からのかかりつけ医へ継続して通院されている。家族様に通院同行の協力も頂いている。その際、家族様へ近況報告をさせて頂き、又、医師へあてた通院情報提供書、バイタル表を作成し医師との連携を取っている。状況に応じ、職員が通院同行し医師、家族、ホームとの連携を密にしている。 | 入居前からのかかりつけ医を継続している。家族同行の受診の際は、事業所からの「通院情報提供書」(前回受診以降の詳細な状況を記載)、約2週間分の「健康記録表」を家族が持参し医師に提供している。受診結果は、職員が家族から口頭で確認している。病状によっては、終末期ぎりぎりまで主治医と連絡を密に行い、事業所としてできる最大限のケアを提供している。主治医が遠隔地の場合には、家族に説明と同意の上、協力医療機関に変更する場合もあった。利用者の不調時には、隣接施設の看護師の助言を得ながら、早期に受診している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ホームに看護師はいない為、緊急の場合は併設された施設看護師へ協力を求め対応して頂いている。又、情報共有出来るよう日頃の関係性を大切にしている。通院同行した際は利用者様の情報を的確に伝え、常に個々の観察、状態把握をしっかりと行えるよう職員間での情報共有を大切にしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院の際は速やかにサマリー提出し利用者様の情報を共有出来るよう対応している。又、かかりつけ医、家族様との連携を大切にし、緊急時の対応、相談等を行えるよう努めている。入院後の病院の相談員との連携も大切にし、早期退院、退院後の支援について連携を図り利用者、家族様に負担を掛けないよう対応している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所の際、併設された特別養護老人ホームへの入居申し込みをして頂き、重度化に伴い適切な支援の継続が出来るよう対応している。又、当ホームでは看取り対応は行っていないことを説明し理解して頂いている。病気、怪我等で入院された際は、状況に応じ早めに家族、病院との話し合いから利用者、家族の要望を聞き入れ今後の対応を決めている。出来るだけこのホームでという家族様もおられ、希望に添えるよう支援している。※重度化。医療を必要とするケア提供体制を提示し共有を図っている。 | 入居時に、事業所の方針として、看取りは行わないことを伝え、系列の特別養護老人ホームの入所申し込み手続きをして頂いている。入居後、職員の手厚い介護を受け、家族から最期までお世話になりたい等の要望を受けることもあり、事業所では対応できる最大限のケアを提供している。重度化し、血圧低下や意識低下がみられる利用者を、医療機関と綿密な連携を図り、入院までの期間お世話したことも、最近あった。 | |

事業所名 : 福光園グループホームフクちゃんハウス

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時・事故対応マニュアルの作成、施設内研修の実施、普通救命講習受講、避難訓練の実施から日々職員の意識を高め緊急時対応に備えている。又、急変時等のケース記録、申し送りを重要視し職員間での共有、把握に繋げている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害マニュアル作成、定期的に避難訓練実施している。職員全員関わることで知識の習得に努め、実践に役立てるようにしている。運営推進会議の際、利用者様の現状報告する事で理解して頂き、地域の方々の協力要請も行い体制確立に努めている。※アネックス拠点での協力体制もある。 | 避難訓練は、法人本部との合同を含め、年4回実施し、夜間訓練も行っている。市のハザードマップ上では、水害の心配はない。事業所は、東日本大震災余震で大きく損壊した経験から、地震と火災を想定した訓練を行なっている。各居室に、タオルと帽子を入れた巾着を常備しており、避難退室の目印として巾着を居室前に置くこととしている。訓練の経験から、車椅子を使用していない利用者の居室にも、緊急移動に備えて車椅子を配置している。法人本部で、地域の防災協力員(10名)を委嘱し、職員の緊急連絡網は、近距離者からの連絡順としている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 接遇マニュアル、禁句マニュアル作成、施設内外研修を通し学習し、日頃の介護に役立っている。利用者様一人一人の思いを受け止め、尊重し対応している。会話の中で出てくる気持ちや自発的行動を出来るだけ否定せず、受け止めた上で場にあった対応を心掛けており、職員間でも共有している。 | 利用者を尊重し、適切な介護の提供のため、施設内外での研修を通し学習し、実践している。接遇マニュアルや禁句マニュアルを整備し、日々の業務に活かしている。不適切と思われる対応には、管理者や主任が書面や口頭で注意喚気を図っている。職員から利用者へは、名前に「さん」付けで声がけている。視線は同じ高さであること、背後からの声がけは不要であること等心掛けている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活での表現、行動、会話の中で本人の思いや欲求を見つけ出し、やりたいこと、出来ることから意欲向上に繋げている。自身の気持ちを言葉として出せるよう職員、利用者様間のコミュニケーションを大切にし、話せない方には選択肢を与え、言いやすい雰囲気作りを心掛けている。 | | |

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームフクちゃんハウス

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人一人の特徴を把握し、余暇活動に取り組む際も同じ事を勧めるのではなく、その方にあった内容の物を提供したり、都度、伺いを立ててその日の状況に合わせて対応し、一日を楽しく、穏やかに過ごして頂けるよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご自分で毎日の服を選んで着用されている方もいるが、入浴や起床時に本人の希望を聞き入れながら職員が季節等に合わせて選ばせて頂いている。洗顔、整髪は声掛けにて出来るだけやって頂き、出来ないところをお手伝いさせて頂き身だしなみを整えている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者様の嗜好を把握し、又、個々に合わせた食形態で対応している。毎日の買い物なので季節に合わせた料理や、食べたい物をお聞きして提供するときもある。身体的に台所に立ちのは難しい方が多いが、出来る方には盛りつけを手伝って頂くときもある。 | 三度の食事は楽しみの機会と捉え、できるだけ嫌いな食べ物は出さず代替品を提供している。馴染みのお店での外食の際には、ミキサー食利用者用にレトルト食を持参し、調理して頂いている。献立は、介護補助員を中心に、調理担当日の職員が、前日までの献立や利用者の好みを取り入れ決めている。おやつ時の飲み物には、便秘予防、カロリーカットにオリゴ糖を使用している。家族を含めた全員での外食機会や季節の行事食も提供している。正月の雑煮は、飲み込みが不安で郷土食である餅は提供していない。日常的にはひつつみを提供している。利用者の誕生日には、職員と外食を楽しみ、午後には全員ケーキでお祝いしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者様個々の状態に合せた食事量、食形態で提供している。年2回併設施設の管理栄養士へ献立、食材使用料を提出しカロリー計算をお願いし、助言して頂いている。日々の食事量、水分量をチェックし状況に応じて水分を多く提供する等個々に対応している。又、職員間で共有し対応している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、声掛けを行い口腔ケア実施し口腔衛生に気を付けている。利用者の力量に応じ介助してあげる方もおられる。皆さん、口腔ケアを受け入れて下さっている。夜間は入れ歯を洗浄剤で消毒し衛生管理に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 殆どの方が尿取パット使用しているがオムツの使用はせず昼夜を通し全員トイレで排泄している。介助が必要な方が多く、言葉での訴えも聞かれるが、利用者様の特徴を捉え体動、表情での訴えも汲み取る様にしている。又、排泄表を確認し、必要に応じて声掛けし対応し、出来るだけ不快な思いをさせない様支援している。 | 起立姿勢がとれる状態であれば安易におむつ使用せず、昼夜ともトイレでの排泄支援を心がけている。排尿量や排泄間隔等をこまめに確認し、パットの大小や誘導時間の短縮を職員全員で検討し対応している。おむつ使用の方はいない。年々高齢化により下肢筋力は低下傾向にあるが、手すりを利用したり、椅子に座った姿勢での日常的な下肢の体操も励行している。快便を促す食材も工夫している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 職員会議で研修し便秘に対する知識を共有している。個々に対し職員間で検討し排便を促す食材、料理を考え寒天、もち麦、ゴボウ茶等々毎日の食事に取り入れている。はっきりした効果は見えないが検証し現在も継続している。又、かかりつけ医の指示による下剤の服薬にて排便を促し、体調管理に努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴は毎日午後行っている。1日4名位なので1日～2日置きに入浴して頂いている。又、入居当初から家族、利用者様から同姓介助希望の方には、希望を受け入れ対応している。又、その日の状態、体調に合わせてシャワー浴、清拭、足浴での対応もしている。入浴中に色々な会話を楽しまれる方もいる。 | 1年365日、お風呂の機会を提供している。体調不良や昼食後の覚醒不十分等の利用者を除き、1日4名程が入浴している。一番風呂を楽しみにしていたり、浴槽で体を洗いたいから最後に入りたいたい等、個々の要望に応じている。異性介助にも配慮している。職員とゆっくり会話を楽しんだり、溜まっている不満や愚痴を次々話し、ストレス解消の場になっている利用者もいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者様のその日の状態、希望を取り入れ居室での休息の支援を提供している。季節に合わせて昼夜を通しての室内の空調管理、週1回のリネン交換、居室掃除で気持ちよく過ごせるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 日々の状態観察、通院時のケース記録、申し送りから利用者様個々の状態把握に努めている。通院時の家族様、職員からの報告、お薬説明書から薬の目的、副作用については職員間で知識を共有している。又、次回通院時に情報提供書作成し状態説明し症状の変化等お伝えしている。服薬に関しては、状態に合わせて散剤に変更して頂く等負担を掛けないよう支援している。 | | |

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームフクちゃんハウス

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人一人に合わせて余暇活動、軽作業を提供し取り組んで頂き、機能活用、機能維持に繋がっている。又、外食、ドライブ等外に出掛けること、慰問で外部の方々と触れあうことを通して楽しみ、気分転換となるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 誕生日を利用しての外食、季節に合わせたドライブ、庭の散歩等利用者に合わせた対応で支援し楽しみを提供している。家族様との行事(ベコニア館見学、敬老会、芋煮会、新年会)や地域の方々のご協力による行事(子供御輿、運動会、小学校への雑巾寄贈、文化祭招待)への参加も積極的に支援している。 | 誕生日には、午前中から職員と一緒に外出し、昼食を摂ることを定例としている。コロナ禍の中で今年は、地域の各行事は中止となっている。家族との交流も控えている。数年前までは、食材の買い物や敷地内の畑の草取りをする利用者もあつたが、最近は介護度が高く車椅子使用者が多いため、屋外外出は介助が必要となっている。その状況でも、昨年は、車椅子使用者を含め、貸切で狛鼻溪の舟くだりを楽しんでいる。最近では、全体的には、外出を促しても日中ホールで過ごすことを希望する傾向にある。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 各家族様からお小遣いをお預かりし帳簿確認を毎日行い、管理している。利用者様が個人でお金を持つことは家族様了解の基行っていないが、必要物品については家族様にお問い合わせ、職員が対応し要望に応え、生活に困らないよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者様から電話をしたいとの希望があれば、職員が間に入り支援している。又、家族様からの電話も取り次いでいる。面会時もゆっくり過ごせるよう居室で過ごして頂き、家族様との時間を大切にさせて頂けるよう支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節、天候に合わせて共用空間(食堂、居室、廊下、トイレ)は空調、加湿器にて調整している。又、照明も利用者の意見を聞き入れ不快感を与えないよう配慮している。玄関、食堂には季節毎の花を飾ったり、花壇の花や職員が自宅の花を摘んできて眺めて頂いたりする事で季節を感じて頂いている。 | 玄関を入ると、正面に利用者が日中過ごすホールがあり、ホールを囲んで居室が配置され、居室やトイレへ出入りがスムーズにできる構造となっている。廊下の天井は高く、開放感があり、空調、加湿器で調整し、快適な生活環境となっている。ホールには、所々に椅子やソファが配置され、調理カウンターからも利用者の様子が確認できている。日中のホールは殆どの利用者にとって第二のわが家になっている。 | |

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームフクちゃんハウス

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食堂で過ごされることが多いが、自身で居室へ行きくつろいだり、廊下にソファを置くことで利用者様同士、職員との語らいの場、憩いの場となっている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は利用者様、家族様の思いに合わせて花や写真を飾ったり、馴染みの物を持ち込み安心、穏やかな生活を送れるよう支援している。衣類の衣替えも家族様が整理したり、不足な物を家族様にお伝えし協力して頂き不便がないように取り組んでいる。 | 左記の自己評価の内容に加え、傍らに夫の位牌があるだけで安心感のある利用者や沢山の花を家族が持参される利用者の居室があるとのこと。消灯時間は決めておらず、夜間テレビを観て過ごしている利用者が2名いる。ベッド、洗面台、エアコン、収容量の多いクローゼットが備えつけられており、室内はすっきりしていると聞きとった。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している | 廊下、トイレ、浴室には手摺り設置している。又、廊下にはソファを置き休息の場としている。浴室も滑り止めマット、シャワーチェア一使用で立位不安定な方も安全に入浴出来るよう介助、支援しています。廊下の幅、トイレ内も広く車椅子対応出来るよう作られています。居室入り口に名前を標記し、自身で確認されるときもあります。全面バリアフリーです。 | | |